

志度湾 →
琴電志度線車両
行先は終点「琴電志度」 ↓



↑志度湾沿いに続く街道で
お遍路さんとすれ違う
←志度寺
↓志度寺本堂



↑志度寺副住職十河氏と
境内にある海人の墓 →



←正面の小山が真珠島
手前は志度寺側陸地



「海人」を歩く

能「海人」の舞台となる補陀洛山志度寺（香川県さぬき市）は、四国八十八箇所霊場第八十六番札所（本尊は十一面観音菩薩）として多くの信仰を集める古刹です。JR 岡山駅で新幹線からマリノライナーに乗り換えて瀬戸内海を渡り、JR 高松駅近くの琴電築港駅から志度線で海沿いを走りながら、終点「琴電志度駅」に着きました。途中には「房前」「塩屋」などの駅もあり、まるで「海人」の世界に導かれていくようです。志度駅前から海沿いの道を歩き始めるとすぐに、お遍路さんの一行とすれ違いました。お遍路姿の方たちから会釈をされると、急に俗世と距離ができたような心穏やかな気持ちになり、四国に着いたという実感がわきます。

志度寺の縁起によると、推古三十三年（625）に近江の越し凡菌子（おうしのそのこ）が、志度浦にたどり着いた霊木から本尊（十一面観音）を造立し、観音浄土の瀬戸の入口として開創したのだといわれています。さらに藤原不比等の次男・房前公が持統七年（693）に、亡母追善供養のために行基に法華八法の修法を営ませて堂宇を建立し、自らは千基の石塔群に写経して経塚に奉納したのが現在境内に残る「海人の墓」だそうです。早速本堂にお参りをし、本堂横にある納経所を訪ねると、丁寧な応対とともに、納経所の女性からお茶とお菓子を薦められました。さすが、お遍路さんのお国だと感心していると、副住職の十河氏から、海人が引き上げられたという真珠島が志度湾に面する臨海工業地帯の一角にあり、志度寺のとび寺領であったというお話を伺いました。地元の地図を見せて頂くと確かに真珠島があります。まさか島が現存するとは思っていませんでした。茶菓の対応してくださった女性が車で現地まで案内してくださるとの言葉に、心温かいもてなしを感謝しつつ、ご好意に甘えることにしました。

真珠島は志度寺から海に向かって五分ほどの場所、工場地帯の整備された区画の中にあります。小高い岡のように残る島の頂上の小さな祠には観音像が祀られていました。もとは通称志度山（徳島文理大学香川校付近）に安置されていましたが、志度湾埋立事業の採土地となったため散逸し、その後地元の人々の手によって復元、真珠島に移されたのだといえます。さぬき市の立札によれば、大正初期に島の南側が陸続きとなり、その後西側にわずかに渚を残したまま、昭和四十六年の志度湾埋立工事で完全に陸つづきになったそうです。島の頂上からは志度湾の静かな水面が見渡すことができました。そこだけ別の時間が流れているよう。我が子のために捨てん命 露程も惜しからじー志度の海辺は極楽浄土へ 続…。観音信仰と讃岐の人々の篤い信仰心に、海人の姿が重なる旅行になりました。

平成二十三年 弥生吉日

廣田 幸稔